



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

ニッセイ世界ハイブリッド証券戦略ファンド

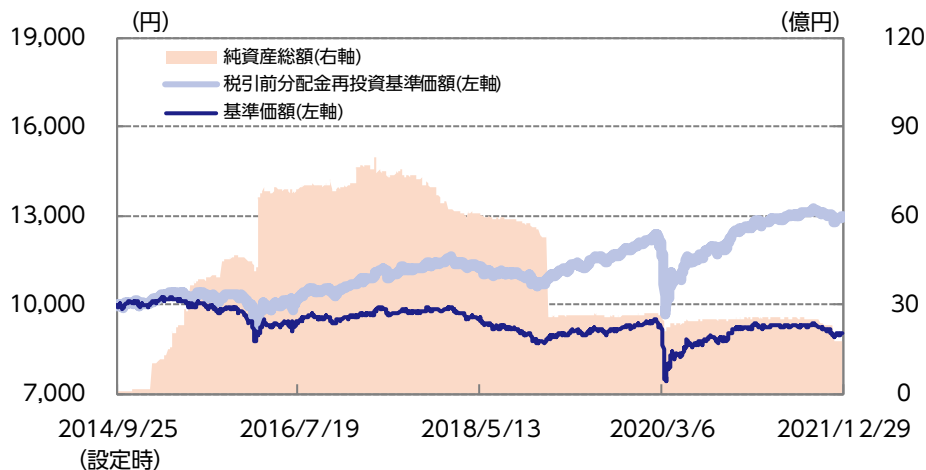
(毎月決算型・為替ヘッジありコース) / (毎月決算型・為替ヘッジなしコース)
愛称: アドバンスド・インカム (毎月・為替ヘッジあり) / (毎月・為替ヘッジなし)
追加型投信 / 内外 / その他資産 (ハイブリッド証券)

マンスリーレポート
2021年12月末現在



運用実績 為替ヘッジありコース

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	9,019円
前月末比	130円
純資産総額	17億円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

第81期	2021年06月	40円
第82期	2021年07月	40円
第83期	2021年08月	40円
第84期	2021年09月	40円
第85期	2021年10月	40円
第86期	2021年11月	40円
第87期	2021年12月	40円
直近1年間累計		480円
設定来累計額		3,400円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.5%	-1.1%	-0.3%	3.4%	21.2%	29.8%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります (個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドA-クラスJ (JPY)	98.6%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0%
短期金融資産等	1.4%

※対純資産総額比

基準価額の変動要因

債券要因	インカム	39円
	キャピタル	108円
為替ヘッジコスト (対円)		- 2円
その他 (信託報酬等)		- 15円
小計		130円
分配金		- 40円
合計		90円

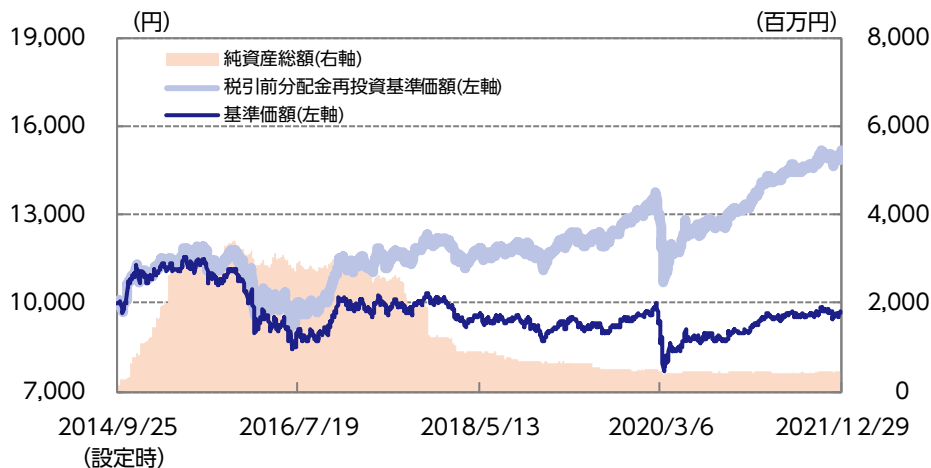
※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

※債券要因および為替ヘッジコスト (対円) 要因は、外国投資信託証券の運用会社であるピムコ (PIMCO: パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー) の資料 (現地月末営業日基準) に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

運用実績 為替ヘッジなしコース

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	9,720円
前月末比	248円
純資産総額	440百万円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

第81期	2021年06月	50円
第82期	2021年07月	50円
第83期	2021年08月	50円
第84期	2021年09月	50円
第85期	2021年10月	50円
第86期	2021年11月	50円
第87期	2021年12月	50円
直近1年間累計		600円
設定来累計額		4,250円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.6%	1.8%	4.0%	15.1%	32.1%	51.4%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
 ※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。
 ※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。
 ※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。
 ※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

ピムコ バミューダ キャピタル セキュリ ティーズ ファンドA-クラスJ (USD)	98.6%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0%
短期金融資産等	1.4%

※対純資産総額比

基準価額の変動要因

債券要因	インカム	42円
	キャピタル	115円
為替要因		107円
その他(信託報酬等)		-16円
小計		248円
分配金		-50円
合計		198円

※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
 ※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。
 ※債券要因および為替要因は、外国投資信託証券の運用会社であるピムコの資料(現地月末営業日基準)に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

投資対象ファンドの状況

※投資対象ファンドの状況は、当ファンドが主に投資対象とする「ピムコ パミュダグ キャピタル セキュリティーズ ファンドA-クラス」(JPY) / (USD) の状況を表示しており、以下の表およびグラフ中の数値は、上記2ファンドの運用会社である、ピムコの資料（現地月末営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

ポートフォリオ情報

平均格付	※1	B B B +
平均デュレーション	※2	3.28年
平均最終利回り	※3	5.32%
平均クーポン	※4	5.33%
平均直利	※5	4.72%
銘柄数		114

※1 格付は、ムーディーズ、S & P、フィッチレーティングスのうち、上位の格付を採用しております。上記の3社により格付が付与されていない場合、ピムコの社内格付を使用しています。以下同じです。
また平均格付とは、投資対象ファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。
※2「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。
※3「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益（額面と購入価額の差）等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。
※4「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。
※5「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価

※対純資産総額比

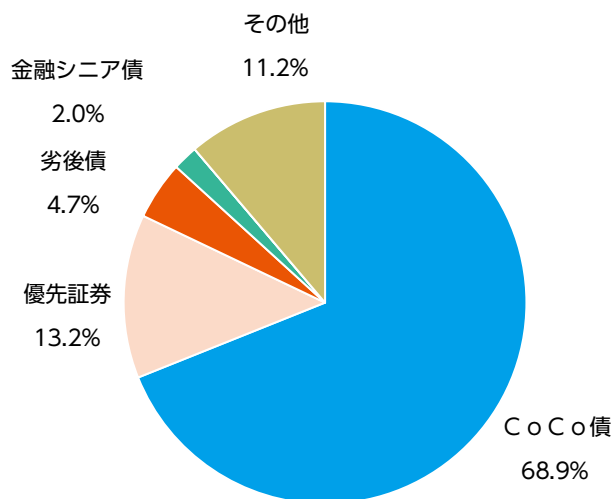
格付分布

A A A 格	8.0%
A A 格	0.4%
A 格	2.4%
B B B 格	52.3%
B B 格以下	36.8%

※対純資産総額比

※ピムコによる社内格付を含みます。

債券種別構成比率



※対純資産総額比

国・地域別構成比率

米国	24.8%
イギリス	21.4%
スペイン	12.3%
オランダ	10.5%
イタリア	8.9%
その他	22.1%

※対純資産総額比

※国・地域はピムコの分類によるものです。以下同じです。

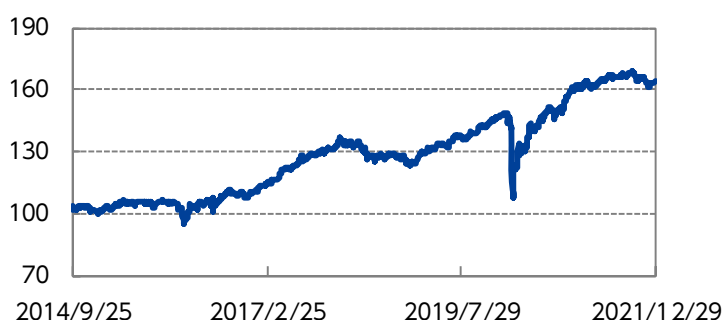
組入上位5銘柄

	銘柄	債券種別	償還日	クーポン	格付	比率
1	ラボバンク	優先証券	—	6.500%	B B B +	4.7%
2	インターザ・サンパオロ	CoCo債	—	7.750%	B B -	4.5%
3	ネーションワイド・ビルディング・ソサエティー	優先証券	—	10.250%	B B B -	4.4%
4	サンタンデール銀行	CoCo債	—	4.375%	B B +	3.4%
5	サンタンデールUK	CoCo債	—	7.375%	B B B -	3.0%

※対純資産総額比

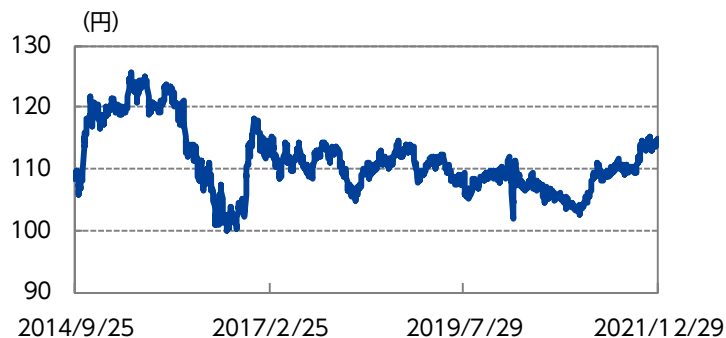
マーケットの状況

C o C o債指数の推移



※ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。
C o C o債指数：ICE B o f Aメリルリンチ・コンティンジェント・キャピタル・インデックス

為替（米ドル・円レート）の推移



※対顧客電信売買相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

※「当月の市況動向」および「ファンドの状況」、「今後の見通しと運用方針」については、ピムコの資料（現地月末営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが合理的と判断した上で作成しています。

当月の市況動向

当月の金融ハイブリッド証券市場は上昇しました。

金融ハイブリッド証券市場では、インフレ率の高止まりを受けた米連邦準備制度理事会（F R B）によるテーパリング（量的金融緩和の段階的縮小）の加速の示唆などがマイナス要因となったものの、株式市場が堅調な推移となったことなどがプラス要因となりました。

金融ハイブリッド証券のセクター別では、C o C o債は前月比1.4%と、旧型劣後債（同0.1%）を上回りました。また、ハイイールド債との比較において、C o C o債は、米国ハイイールド債（同1.9%）を下回る水準となったものの、欧州ハイイールド債（同1.0%）を上回る水準となりました。

（*）金融ハイブリッド証券市場の動きは、ICE B o f AメリルリンチC o C oインデックス50%およびICE B o f Aメリルリンチ優先証券インデックス50%で構成される複合インデックスに基づいています。

ファンドの状況

ポートフォリオにおいては、中長期的な視点に立ち、国・地域別では投資妙味が相対的に高いイギリスや財務健全性の高い米国に注目しつつ、セクター別ではリスク対比で魅力的なスプレッド（国債に対する上乘せ金利）水準を提供するCoco債を高位に組み入れるポートフォリオを構築しています。

（為替ヘッジありコース）

当月は、金融ハイブリッド証券市場の上昇などがプラスに寄与し、当ファンドの税引前分配金込み基準価額は前月末比で上昇しました。

（為替ヘッジなしコース）

当月は、金融ハイブリッド証券市場の上昇などがプラスに寄与し、当ファンドの税引前分配金込み基準価額は前月末比で上昇しました。

（※）上記は、「ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドAークラスJ（JPY）／（USD）」が投資しているハイブリッド証券の運用状況です。

今後の見通しと運用方針

財政政策による景気の底上げ効果が剥落することなどから、2022年における先進国の実質国内総生産（GDP）成長率見通しは4.1%と2021年からは低下するものの、引き続き長期トレンドを上回る成長をたどると予想しています。足元で高止まりしているインフレ率は2022年前半にピークを迎え、国・地域によりばらつきがあるものの年末までにはおおむね落ち着くと考えております。そのような状況下、主要中央銀行による金融政策の正常化に向けた動きは継続し、2021年末に利上げしたイギリスに次いで、カナダ、米国、オーストラリアなども利上げを開始するとみております。なお、景気見通しに対するリスク要因としては、新型コロナウイルスの新たな変異型「オミクロン型」の感染拡大に伴う生産・流通の停滞や、高水準でのインフレ継続、想定よりも早いペースでの金融引き締めなどの動きなどを想定しています。

当ファンドの主な投資対象である証券を発行する大手金融機関については、リーマン・ショック以降、財務健全性を高めてきており、自己資本は歴史的にみて高い水準となっております。足元の資産の状況を踏まえると、今後1年ほどは不良債権の増加は比較的緩やかであると考えます。

金融ハイブリッド証券運用にあたっては、各国で金融規制の導入の仕方にばらつきがあることに加え、金融機関においてもビジネスモデルや保有資産、資本水準などが大きく異なることから、当ファンドでは発行体選択や銘柄選択を重視しています。具体的には、財務健全性が高いとみられるイギリスなどの大手金融機関等へ投資を行う方針です。

（※）上記は、「ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドAークラスJ（JPY）／（USD）」が投資しているハイブリッド証券の見通しおよび運用方針です。

ファンドの特色

- ①主として世界の金融機関が発行するハイブリッド証券※を実質的な主要投資対象とし、金利収入の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。
 - ※ハイブリッド証券とは普通社債と普通株式の特徴を併せ持つ証券で、具体的には劣後債、優先証券等があります。
 - ②ハイブリッド証券運用に関して高い専門性を有するピムコの運用力を活用し、安定した収益の獲得をめざします。
 - ③「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのコースから選択いただけます。
 - ④毎月17日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、分配金をお支払いすることをめざします。
- ※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。
- ※将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（指定投資信託証券を含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

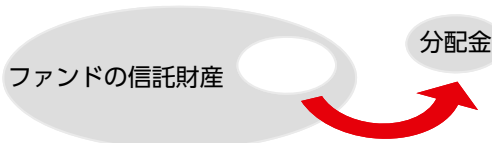
主な変動要因

ハイブリッド 証券投資 リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともないハイブリッド証券の価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、価格が下落します。
	信用リスク	ハイブリッド証券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、価格が下落することがあります。
	ハイブリッド 証券固有の リスク	<ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド証券の一部には、発行体の自己資本比率が一定水準を下回った場合や、実質破綻状態にあると規制当局が判断した場合等に、普通株式に強制的に転換される、または元本の一部もしくは全部が削減される条項等がついているものがあります。これらが実施された場合には損失が一旦確定し、ファンドの基準価額が大きく下落する可能性があります。 なお、普通株式に転換された場合には、株価変動リスクを負うこととなります。 一般にハイブリッド証券は、繰上償還条項が付与されていますが、繰上償還の実施は発行体の決定によるため、繰上償還日に償還されることを前提として取引されている証券は、予定期日に償還されない場合、または繰上償還を行わないと予想される場合、価格が下落することがあります。 一般にハイブリッド証券は、法的な弁済順位が普通株式に優先し普通社債より劣後します。そのため、発行体が破綻等に陥った場合、他の優先する債権が全額支払われない限り、ハイブリッド証券の元利金の支払いを受けることができません。 一般にハイブリッド証券は、利息または配当の支払繰延条項が付与されており、発行体の業績および財務状況等が悪化した場合、利息または配当の支払いが停止・繰延べされることがあります。 ハイブリッド証券に関する法制度の変更（税制改正、市場規制等）があった場合、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	<p>〈為替ヘッジありコース〉</p> <p>外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替ヘッジを完全に行うことができないとは限らないため、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、円の金利が為替ヘッジを行う当該外貨の金利より低い場合などには、ヘッジコストが発生することがあります。</p> <p>〈為替ヘッジなしコース〉</p> <p>外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。</p>	
特定業種への 集中投資リスク	ファンドは金融機関が発行するハイブリッド証券に集中的に投資するため、個別金融機関の財務状況および業績等に加え、金融監督当局の行政方針や金融システムの状況等、金融セクター固有の要因による影響を受けます。そのため、幅広い業種に分散投資するファンドと比べてファンドの資産価値の変動が大きくなる可能性があります。	
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。	
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。	

分配金に関する留意事項

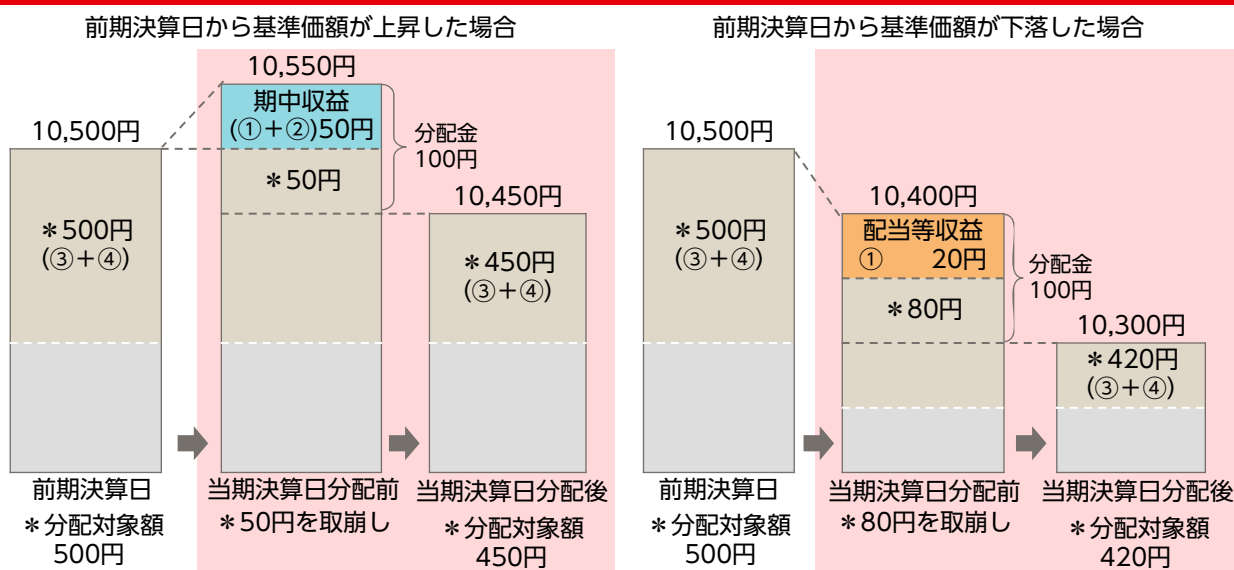
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配準備積立金：期中収益（①および②）のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。

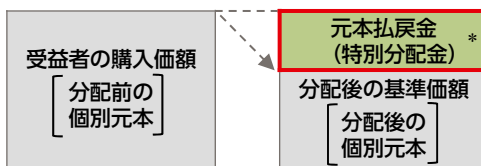
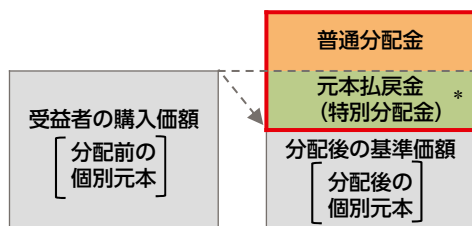
収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

❗ 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



* 実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金（特別分配金）が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金・スイッチングの申込みの受付を行いません。
決算・分配	決算日	毎月17日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年12回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2024年9月17日まで（設定日：2014年9月25日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
	スイッチング	「為替ヘッジありコース」と「為替ヘッジなしコース」との間でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、換金時と同様に税金および販売会社が定める購入時手数料・税金がかかります。 ※販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

! ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%（税抜3.0%） を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年率1.991%（税抜1.81%）をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。	
		投資対象とする 指定投資信託証券	ありません。
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に 年率1.991%（税抜1.81%） をかけた額となります。	
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。	
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。	

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ファンドに関するお問合せ先
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	三菱UFJ信託銀行株式会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品 取引業者	登録金融 機関	登録番号	日本証券業 協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
auカブコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
クレディ・スイス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第66号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
三田証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第175号	○			
UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメント株式会社	○		関東財務局長(金商)第3233号	○	○	○	
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社(※1)		○	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

(※1)委託金融商品取引業者 UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメント株式会社